

(様式 2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 加古川健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<ul style="list-style-type: none">東播磨圏域は健康寿命が県平均よりも低く (H27)、糖尿病、脳血管疾患の死亡率が県平均よりも高い (H23-27 SMR)。食塩の平均摂取量は10.4gと目標量8gを越えている。野菜の摂取量は267gと目標量350gには達していない (H28ひょうご食生活実態調査・20歳以上)。生活習慣病の一次予防として減塩の取組みについて、幼児期から望ましい食習慣の定着に向けて、味覚や食習慣の形成に関わる保育所・保護者・地域、食育関係団体等により行う必要がある。
今年度の推進方策	昨年度に引き続き、児童福祉施設の給食を通じて幼児期からの減塩の取り組みを進める。 また、児童福祉施設を通じた幼児及び保護者への普及啓発に向けて減塩をテーマとした食育リーフレットを関係者とともに作成する。
成果	幼児を取り巻く食育関係機関・団体により、幼児期からの減塩の必要性を共有し、事業計画 (3年間) について再確認するとともに、今年度の食育実践活動の方向性を具体的に検討できた。
今後の方向性	今年度作成した食育リーフレットを活用し、来年度の食育実践活動において、児童福祉施設、食育関係団体を通じて幼児及び保護者への減塩の普及啓発を行う。 また、活動の結果を関係機関・団体で共有し、それぞれの食育活動における減塩の普及啓発へつなげる。

2 会議の開催状況

実施日時	【1回目】平成30年7月27日 (金) 15:00~16:30	【2回目】平成31年3月14日 (木) 15:00~16:30
参集者 (団体数 及び人数)	児童福祉施設関係者、食育に関する学識経験者、食育関係団体、行政機関、県民 9人	児童福祉施設関係者、食育に関する学識経験者、食育関係団体、行政機関、県民 13人
協議内容	・幼児期からの減塩に向けた食育推進体制及び食育実践活動の検討	・食育実践活動の報告 ・平成31年度事業の方向性について
今後の方策	検討結果をふまえ、減塩をテーマとした食育実践活動を行う。 (児童福祉施設給食関係者への普及啓発研修会、幼児期の課題をふまえた食育リーフレットの作成)	今年度作成した食育リーフレットを活用し、幼児期からの減塩をテーマに食育実践活動の実施及び評価を行う。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	健やかな成長につなぐ 幼児期からの減塩の取り組み		
対象及び参加者数	児童福祉施設の施設長又は保育士、給食担当者（調理師・栄養士等） ①60名 ②65名 ③8名 ④8名		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	①8月29日（水） 14:30～16:30 （加古川会場） 加古川総合庁舎	研修会 ○情報提供「食を通じた子どもの健康づくり」 ○講話「給食における塩分濃度の管理」	健康福祉事務所 管理栄養士 高砂市幼児保育課 栄養士 公衆栄養学実習生
	②9月12日（水） 14:30～15:00 （高砂会場） 高砂市役所南棟	○情報提供「幼児期からの減塩に向けた食育活動の提案」 ○商品テスト「食品の塩分について」 ※高砂会場は①のみ	消費生活総合センター 商品テスト専門家
	③11月7日（水） 14:00～15:30 加古川総合庁舎 栄養指導室	次年度の食育実践活動へ向けたワーキング ○幼児及び保護者への減塩の普及啓発に向けた食育リーフレット（減塩）の作成	児童福祉施設関係者 食育関係団体
④1月30日（水） 14:00～15:30 加古川総合庁舎 栄養指導室	○幼児期からの減塩に向けた食育活動の体制整備 （平成31年度活動計画の検討）		
成 果	<p>【成果】 児童福祉施設の職員に対して、東播磨の健康・食生活課題をふまえ、幼児期からの減塩に向けた食育活動や給食管理の必要性について意識啓発ができた。</p> <p>幼児や保護者への食育活動を担う児童福祉施設及び食育関係団体が、減塩に対する取組に関して課題を共有するとともに、食育活動で使用する媒体（食育リーフレット）を作成することにより施設及び団体の食育活動充実の一助を担った。</p> <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設における幼児期からの減塩の必要性等への理解 （実践活動①②（減塩の普及啓発研修会）参加者アンケート結果） 回答数121（回収率97%） 内容は分かりやすかった 94% 今後の業務の参考となった 98% 児童福祉施設給食における食塩摂取量の管理の向上 （汁ものの提供量を把握する施設の割合）平成29年度 79% 平成30年度 97% 		
今後の課題	児童福祉施設における減塩に向けた取り組みの推進 （幼児や保護者への食育活動の実践等）		

健やかな成長につなぐ 幼児期からの減塩の取り組み

【背景】

- 東播磨圏域は健康寿命が県平均よりも低く（H27）、糖尿病、脳血管疾患の死亡率が県平均よりも高い（H23-27 SMR）。
- 食塩の平均摂取量は10.4gと目標量8gを越えている。野菜の摂取量は267gと目標量350gには達していない（H28ひょうご食生活実態調査・20歳以上）。
- 生活習慣病の一次予防として減塩の取組みについて、幼児期から望ましい食習慣の定着に向けて、味覚や食習慣の形成に関わる児童福祉施設・保護者・地域、食育関係団体等により行う必要がある。

【推進方策】

- 児童福祉施設の給食を通じて幼児期からの減塩の取り組みをすすめる。
- 児童福祉施設における幼児及び保護者への食育実践に向けた体制整備を行う。

H29

- ・児童福祉施設給食の汁物の塩分濃度を把握
- ・給食関係者へ幼児期の減塩の取り組みの意識づけ

H30

- ・児童福祉施設に向けた幼児期からの減塩の普及啓発

H31

- ・児童福祉施設と連携した保護者等への食育活動(減塩)の実践

実践活動

児童福祉施設への減塩の普及啓発（研修会）

【日程】 加古川会場 平成30年8月29日(水)
高砂会場 平成30年9月12日(水)

【プログラム】

(※高砂会場は1のみ実施)

- 1 情報提供「食を通じた子どもの健康づくり」加古川健康福祉事務所健康管理課
- 2 講話 「給食における塩分濃度の管理」
講師 高砂市こども未来部幼児保育課 栄養士 浅見朋子氏
- 3 情報提供「幼児期からの減塩に向けた食育活動の提案」
公衆栄養学臨地実習生
- 4 商品テスト「食品の塩分について」
講師 消費生活総合センター 商品テスト専門家 西田好伸氏 出村園栄氏

汁物の塩分測定



参加者の声

- 塩分濃度計を使用することで、正確なデータでの違いを感じ、どのような方法で減らしていけるか？を考えることができた。
- 幼児期から減塩を慣らし、食材の美味しさを味わうことの大切さや美味しく食べられる工夫が大切だと思った。
- 栄養目標(食塩含む)の設定方法を聞くことができて参考になった。

実践活動

幼児期からの減塩に向けたワーキング

【検討内容】食育リーフレット(減塩)の作成
平成31年度 食育実践活動(減塩)について
【ワーキングメンバー】

みのりヶ丘保育園、小規模保育事業つみき保育園、
高砂市立荒井保育園、高砂市立高砂児童学園、
加古川健康福祉事務所管内栄養士会地域活動部会、
加古川健康福祉事務所管内いずみ会、
高砂市こども未来部幼児保育課



メンバーの意見

- イラストや写真を入れて保護者が子どもと一緒に見ることができるよう。
- 身近な食品にどのくらいの食塩が含まれているかを伝えたい。
- 食塩摂取量について大人だけでなく子どもの目標量も知ってほしい。

食育推進会議の設置

参集

児童福祉施設関係者
食育に関する学識経験者
子育てサークル関係者
加古川健康福祉事務所管内いずみ会
加古川健康福祉事務所管内栄養士会
播磨東教育事務所
加古川農業改良普及センター



- 第1回 平成30年7月27日(金)
 - ・幼児期からの減塩に向けた食育実践活動について
- 第2回 平成31年3月14日(木)
 - ・食育実践活動の報告
 - ・平成31年度事業の取組みについて

今後の取組み

今年度作成した食育リーフレットを活用し、来年度の食育実践活動において、児童福祉施設、食育関係団体を通じて幼児や保護者へ減塩の普及啓発を行う。